

使徒的信仰聖書の学び  
レッスン2: 御言葉に沿った救い

このレッスンは、最も重要な主題である私たちの救いについて、聖書が何と言っているかを学ぶものである。このレッスンでは幾つかの下記の質問に対して、聖書的な答えを探して見よう。

1. 人が救われる為に何をすれば良いのか?
2. 救われるには信じるだけで良いのだろうか?
3. 実際に人が“救いを得る”例えが、新約聖書の中にあるのか?
4. 聖書的な救いは、一つ以上あるのだろうか?

1. 救いについてのイエス様の言葉

a. 朗読 ルカ 19:10

- i. イエス・キリストご自身が、人を救う目的の故に地上に来たと言われた。一人一人がその人の命のために、彼がいけにえとなってくださったことを無駄にしてはいけないという責任をおっている。

b. 朗読 ヨハネ 3:1-18

- i. これはイエス様の救いに関する参考の一つである。詳細を見てみよう。一つは、絶対に水と霊とで生まれなければ神の国に入る事は出来ない。
- ii. 15節と16節には、救われるために信じる事が基礎であると言う事が分かる。何らかの形で水と霊とによって再生を受けるにつながる信心でなければいけないと言うことを留めていていただきたい。神の御言葉と聖書は矛盾しない。

2. 大委任

- a. イエス様が弟子達に与えた最後の導きは、4福音書の中でもよく知られるように大委任である。調べると、大委任の違う5つの面を見出す事が出来る。初めの4つは救いに至る歩みである。最後の5つ目は、“天から力を得た”結果である。

- i. 信じる(一度だけ言われた)
- ii. 悔い改め(一度だけ言われた)
- iii. バプテスマ(三度言われた, ルカが言った“罪の許しを得る”も含まれる。後にバプテスマの参照となる)
- iv. 父からの約束/天からの力
- v. 奇跡とするし

b. 朗読 マタイ 28:18-20

- i. イエス様は弟子達に命じられた事を、弟子たちや人々がしていくようにと教えられた。19節を書き留めて欲しい、彼は父、そして子と聖霊の御名(単数形)によってバプテスマを受けるようにと言われた。だから私たちは、バプテスマを受ける際、その御名を用いなければいけない。父は名ではない、子は名ではない、聖霊もまた名ではない。これらはただの肩書き、または神の現れる方法であ

る。それでは私たちはどの名でバプテスマを受けるべきか? イエスの御名である!

c. 朗読 マルコ 16:15-20

- i. ここに信仰とバプテスマ、奇跡、しるしについて見る事が出来る。記されているしるしの一つが異言、もしくは他の国語を語ることである。
- ii. ある人達は、悪魔によって異言を語っていると言うが、それは間違いであり、聖書の中で見つける事も出来ない。イエス様自身も、信じる者は新しい言葉を語ると言っている。I コリント 14:39 の中でも、使徒パウロが“異言を語ることを妨げてはならない”と言っている。

d. 朗読 ルカ 24:44-53

- i. イエス様が弟子達に悟りを与えている。それだから、彼らが何を言っているのか知ったうえでそのことを語っていると確信すべきである。
- ii. 悔い改めと罪の許しについてもまた、大委任の中でルカによって記されている。
- iii. 後に“父からの約束”の教えは、聖霊の賜物の参照。

3. 五旬節 (ペンテコステ) の日のメッセージ

a. 朗読 使徒行伝 2:36-42

- i. これは教会の時代に、救いを必要とする罪人に語られた初めてのメッセージである。ペテロは、悔い改め、バプテスマ (受ける名は前以て記載)、そして聖霊を受ける事も含めて語っている。
- ii. ある人は、聖霊は使徒たちだけに与えられるものと言うが、その見解は聖書的ではない。使徒行伝 2:39 に記されるように、この約束は子々孫々続くものである。
- iii. どのように罪人が許されるのか? イエスの御名によるバプテスマを受ける事によって。水 (バプテスマ) と霊 (聖霊) とによって再生を受けると聖句にも記されている。
- iv. ではそれぞれの面を見てみよう。事実聖書の聖句は他の聖句を否定する事はない。それぞれの面は私たちの救いに必要不可欠である。

4. 信じる

a. 朗読 ヨハネ 7:38-39

- i. イエス様は聖霊を信じる事と受ける事を語られた。ここに私たちが聖句に基づいて行う事を加えられた。イエス様は明確に“いける川の水”と 霊のことを語っている。それは聖霊のことである。

b. 朗読 ローマ 10:8-17

- i. ある人は、特定の聖句だけが聖書全体の真意を示すもので、ほかの節は全く意味を持たないと言うが、それでは節ごとに吟味してみよう。

c. 8 節

- i. パウロは旧約聖書を引用した。彼は、言葉はあなたの口にあり、心にあると言った。その言葉とは使徒たちの語った信仰の言葉である。
- d. 9-10 節
  - i. 使徒パウロは心と口がどうして救いに関係があるのかを説明した。人が心に信じて、口で告白して救われる(時には“まで”と訳する)。これらが成就する時に人は救われるとパウロは言っている、しかし信じて告白するだけで救われるとは言っていない。
- e. 11-13 節
  - i. パウロは旧約聖書からさらに聖句を引用した。
- f. 14-15 節
  - i. パウロは、神から使わされた人が語る福音を聞くまでは人は呼び求める事も神を信じる事も出来ないと言っている。
- g. 16 節
  - i. パウロは“福音に従う”と“私たちから聞いたことを信じる。”を結び合わせた。もし本当に信じるなら、福音に従う。真の光を見る事が出来れば、この節が、使徒たちの語る従順について書かれた他の節と矛盾していない。矛盾する代わり、確かなものになっている。
- h. 17 節
  - i. 最終的に、彼はまとめとしてこう言っている。“信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリスト（神）の言葉から来るのである。”覚えて欲しい、パウロは8節から使徒たちの語った信仰の言葉について語っている。
- i. 朗読 ローマ 1:16
  - i. パウロはキリストの福音は“信じる者に、救いを得させる神の力”と言っている。何を信じるのか？ 福音である。もし救われたいのなら、福音を信じなくてはいけない。
- j. 朗読 マルコ 1:15
  - i. 再度、信じるには悔い改めが重要で不可欠だということが分かる。何を信じる？ 福音である。上の2つの聖句は聖句に基づいて、読んで分かるようにイエス様を信じるということを伝えている。(ヨハネ 7:38)
- k. 朗読 ヘブル 11:6
  - i. 神を喜ばせるためには信仰がなくてはいけないことを表している。
- l. 朗読 ヤコブ 2:17
  - i. 効果的にするためには信仰に行いを伴わせなくてはいけない。(信仰についての全の理解を得るために残りのヤコブ2章を朗読。)
- m. 朗読 II テサロニケ 1:7-10

- i. 8 節に記されるように、パウロは神を知る事と信じる事ではなく福音に従う事を結び合わせた。
- ii. 10 節にこうある、世の終わりにイエス様の再臨の時、使徒たちの証を信じた者と共に栄光を受けられると使徒達は信じ、語っている。
- iii. 上の聖句の節より、私たちの救いには信じて行う事が必要だと言う事が分かる。2 つ目の行いは悔い改めである。

#### 5. 悔い改め

- a. 朗読 マタイ 3:1-2
  - i. イエス様のことを思い、ヨハネは初めに悔い改める事を語った。
- b. 朗読 ルカ 13:3
  - i. イエス様は、ご自身でも悔い改めについて強く勧めた。
- c. 朗読 II ペテロ 3:9
  - i. ここに、私たちの主の死から約 30 年後、悔い改めは続けて語られていた事が分かる。ペテロは、悔い改める事は私たちを滅びる事から回避し、私たちの救いには悔い改めが必要だと示している。

#### 6. バプテスマ (洗礼)

- a. 朗読 I ペテロ 3:20-21
  - i. ペテロの語っている聖句は、ノアとその家族が洪水から救われたことと私たちが水のバプテスマを受けて救われる事とをたとえている。
  - ii. 使徒行伝 2:38 に基づいて、私たちは“罪の許しを得る”ためにバプテスマを受ける。罪の許しを得るとは、罪悪感から解放され、もしくは罪の報酬を受けないと言う事である。罪の許しを得る事は可能である。何故なら、イエス様が十字架の死によって報酬を支払ってくださったからである。
- b. 朗読 マタイ 3:13-16
  - i. ある人は、“私は洗礼を受ける必要はない。”と言う。しかし、すべての義が成就する為に、イエス・キリスト御自身もバプテスマを受けられた。もし、完全であったイエス様でさえバプテスマを受けられたのなら、誰が我々はバプテスマを受ける必要はないと言えようか。?
- c. 朗読 使徒行伝 22:16
  - i. この節は、タルソのサウロに対するアナニアの導きである。サウロは使徒パウロとなった、殆どの新約聖書を書いた人である。
  - ii. ここでもまた、バプテスマが私たちの罪を洗い流す事を見る事が出来る。
- d. 朗読 使徒行伝 4:10-12
  - i. 覚えているだろうか、マタイ 28:19 の中で、洗礼を受けていたのは父と子と聖霊との御名によってであったら

うか?御名は何であったか? 12節に記されているように、私たちが救われうる名はただ一つ。イエス・キリストの御名による。

- e. 朗読 ローマ 6:3-5
  - i. この節では、私たちの救いのための、バプテスマにおける実際のルールを表している。私たちはイエス様の死と、よみがえりに入ることが出来る。もし私たちがイエス様の死の様に等しくなれば、死からのよみがえりの様にも等しくなると言っている。
- f. 朗読 ガラテヤ 3:27
  - i. ここで言われるように、私たちが“キリストを着る”とは、その御名を継ぐ、もしくはイエス様の家族に加わると言う事である。
  - ii. 上記されるこの聖句の節は、イエス様の御名によるバプテスマは私たちの救いに於いて大事な要素であることを表している。

## 7. 聖霊

- a. 朗読 使徒行伝 1:4-8
  - i. これもまたイエス・キリストが地上で過ごされる最後のひと時である。イエス様はまだ彼らが受けていない事柄を語られた。またイエス様は聖霊を受ける事は力を受けるという点も挙げられた。
- b. 朗読 使徒行伝 2:1-8
  - i. この節はペンテコステ（五旬節）の日に注がれた聖霊についての記録である。4節には彼らが聖霊を受けた時、他国の言葉を語ったと記録されている。
- c. 朗読 使徒行伝 2:14-18
  - i. 教会の時代に、ヨエル 2:28 を引用して初めてペテロが語ったメッセージである。ヨエルの時代のときから、神は神の霊を注ぐ計画をしておられ、ヨエルの預言はペンテコステ（五旬節）の日に成就した。
- d. 朗読 イザヤ 28:11
  - i. これもまた旧約聖書の、聖霊に関する参照である。
- e. 朗読 エペソ 1:13
  - i. エペソの信者たちは、福音の真理を聞いて信じた後聖霊を受けた。ここでは信じることと聖霊を受ける事のつながりを表している。
- f. 朗読 I コリント 6:19
  - i. 真のクリスチャンの内には聖霊が宿っているべきである。
- g. 朗読 ローマ 8:9-11
  - i. この節で、私たちの救いのために聖霊を受ける事が重要である事を表している。9節に神の霊がその人の内に宿っていなければ、その人は神のものではないと記されている。

- ii. 注目点: この“聖霊”“神の霊”“主の霊”そして“キリストの霊”は類義語であって、すべて同じ霊を意味する。(I コリント 12:13) (創世記 1:2; マタイ 3:11; ルカ 11:13; 使徒行伝 1:5 使徒行伝 2:4; ローマ 8:9; II コリント 3:17; エペソ 1:13; I テサロニケ 4:8; I ペテロ 1:11)

#### h. 例

- i. これまで私たちは信じる事、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物を受ける事、これらすべては救いの部分である事を見てきた。ではここから、実際に人々がこれらのガイドラインに従って救いを経験した事を見てみよう。
- ii. サマリヤ人
  1. 朗読 使徒行伝 8:6-17
  2. 6-8 節に人々が癒され、喜びを受け、悪霊が追い出された事がしるさせている。しかしまだ彼らは聖霊を受けていなかった。“私には主の喜びがある、だからきっと聖霊を持っているに違いない。”もしくは“私は癒されたから、きっと聖霊を受けたに違いない。”と人々は言うかもしれない。または“私が悔い改めた時、聖霊を受けたに違いない”しかしながらこれらは聖霊を受けたと証明するしるしではない。
  3. ある人達は、信じた時に人々は聖霊を受けると宣言する; また他の人々は、洗礼を受けたときに聖霊を受けると言う。しかし、これらの聖句は上記の場合のように自動的に聖霊を受けるものではないと言う事を表している。12-13 節には、人々が信じてバプテスマを受け、でもまだこの時には聖霊は受けていなかった。
  4. 癒し、喜び、解放、信仰、そしてバプテスマこれらすべては聖霊を受けた時とは異なる別々の体験である。
  5. 16 節に、人々が主イエスの御名によってバプテスマを受けた事が記されている。

#### i. タルソのサウロ

- i. 朗読 使徒行伝 9:17-18
  1. この節はサウロの回心に関するものである。パウロと改名し偉大な使徒となった者である。新約の教会の人達のように、彼もバプテスマを受け、聖霊に満たされたと記されている。神は人を偏り見るお方ではない。救われる為には、誰もが同じ計画に従う必要がある。
  2. それでも 2 つの節には、特に異言を語ったとは記録されていない。私たちは語った事を確信する事が出来る。なぜなら、1 コリント 14:18 の中で、

使徒パウロは“私はあなたがたの誰よりも多く異言を語ることを神に感謝する”と言っている。

j. コルネリオ

i. 朗読 使徒行伝 10:44-49

1. コルネリオは神を恐れる人であった。(使徒行伝 10:30); しかしまだ聖霊は持っていなかった。
2. ペテロが語った時、コルネリオと彼の家族の上に聖霊が臨んだ。どうしてペテロは彼らが聖霊を受けたと知ったのだろうか? なぜなら彼らが異言を語るのを聞いたからである。(46節)
3. その後、彼らは聖霊を受けた。ペテロが彼らに、主の御名によってバプテスマを受けるように命じたからである。私たちはイエス様こそ主の御名と知っている。(マタイ 9:28; 使徒行伝 4:33; 使徒行伝 7:59; 使徒行伝 9:5; II ペテロ 1:11.)

k. ピリピの獄吏

i. 朗読 使徒行伝 10:30-33

1. ここで獄吏は、パウロとシラスにどうすれば救われるかと尋ねた。彼の初めの第一歩はイエス・キリストを信じることであった。33節に、パウロは夜のうちに彼にバプテスマを授けた。明らかにパウロは彼にバプテスマについて教えをした事が分かる。

1. バプテスマのヨハネの弟子たち

i. 朗読 使徒行伝 19:1-6

1. 使徒パウロは、エペソでバプテスマのヨハネの弟子幾人かと出会った。彼らは聖霊について聞いた事がなかった。パウロは彼らにどの名でバプテスマを受けたのかと尋ねた。パウロが、彼らが受けたのはバプテスマのヨハネによってバプテスマを受けており、イエスの御名によってではなかった事を知った時、パウロは彼らに言った。ヨハネは彼の後に来る方を信じるようにと回心させただけに過ぎないと。それがイエス・キリストである。
2. これらを説明した後、ヨハネの弟子たちは彼らに表されたこの奥深い真理を受け入れ、主イエスの御名によってバプテスマを受けたいと願った。バプテスマを受けた後、パウロが彼らのために祈った時彼らは聖霊を受けた。聖霊を受けたしるしとして彼らは異言を語った。

レッスン2 ワークシート

1. ヨハネの3章に基づいて、御国に入るために2つの再生を受けなければならない、それは何か?

a. 肉と血

- b. 水と霊
  - c. 善行と光
2. 聖書の中で人がバプテスマを受ける時用いるただ一つの御名は?
    - a. イエス
    - b. バプテスマのヨハネ
    - c. ペテロ
  3. 信仰がなくても神を喜ばす事は出来るか?
    - a. Yes
    - b. No
  4. 何のない信仰は死んだ信仰?
    - a. 良い意志
    - b. 知識
    - c. 行い
  5. 神は私たちに滅んで欲しくない、滅びる代わりに、何を持って欲しいか?
    - a. 知識を持つ
    - b. 悔い改めの心を持つ
    - c. 富を持つ
  6. 聖霊を受けたしるしは何?
    - a. 洗礼を受ける
    - b. 異言を語る
    - c. 信じる